

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と

今後の学力向上への取り組みについて

上田市立北小学校

令和 7 年度に実施いたしました「全国学力・学習状況調査（6 年生）」の結果が出ましたので、その概要と、これに基づいた本校の学力向上のための取り組みについてご報告させていただきます。

子どもたちの「確かな学力」をさらに育むため、引き続き教職員一同、尽力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 令和 7 年度 全国学力・学習状況調査（6 年）の結果概要

本校（上田市立北小学校）の 6 年生の結果は、国語、算数ともに全国平均を上回る結果となりました。

教科	本校 平均正答率	全国平均
国語	69%（全国平均を 0～3%未満上回る）	66.8%
算数	62%（全国平均を 3%以上上回る）	58.0%

（1）本校の強み（得意な点）

【国語】

- ・ **語彙・対話活動の成果**：「語彙理解」の正答率が 89.7%と高く、「話す・聞くこと」の領域も高水準です。これは、日常的な対話活動やスピーチ・発表活動の積み重ねの成果が見られるものと考えられます。

【算数】

- ・ **知識・技能領域**：知識・技能の領域が非常に強く（67.6%）、繰り返し学習や計算練習の定着が見られます。短答式問題の正答率も高い（86%）ことから、素早く正確に答える計算技能・基礎力が定着していると言えます。

（2）本校の課題（今後の伸びしろ）

さらなる学力向上のため、以下の点が課題として挙げられます。

【国語】

- ・ **「書くこと」の構成・表現**：文の組み立てや、根拠を明示して書く力をさらに育成する必要があります。
- ・ **根拠の明確化**：「根拠をもって考える」課題において差が見られ、一見正解が複数に見える問題に対し、本文の根拠を明確化する指導が鍵となります。

【算数】

- ・ **記述による表現力**：記述式問題（39.8%）が課題であり、「なぜそう考えるか」「どのように求めたか」を表現する力が不足しています。例として、五角形の面積の求め方を式や言葉で説明する問題で苦戦が見られました（42.9%）。
- ・ **思考・判断・表現力**：思考・判断・表現の領域が相対的に弱い（55.1%）ため、単なる計算だけでなく、筋道立てた論理的思考を育てる必要があります。

2. 学力向上のための具体的な取り組み

上記の結果を踏まえ、本校では以下の継続的な取り組みと新しい取り組みを通じて、児童の学力向上を目指しています。

（1）継続した取り組み

- ・ **専門家による職員研修**：教育の最新事情についての職員研修を年 2 回実施しています。麻布教育研究所の村瀬公胤先生や東信教育事務所の甘利秀也主任指導主事を指導者としてお招きし、そこで学んだことを職員全体で共有し、子どもたちが主体的に授業に参加できることを目指しています。
- ・ **重点研究の推進**：「よくまなぶ部会」「よくふれあう部会」の 2 つのグループで重点研究を行い、授業公開や研究会を通じて成果と課題を共有し、互いに刺激を与えあっています。

(2) 新しい取り組み

- 「ちょこっと授業紹介」の推進：短時間で自分の授業や子どもの良さを伝える活動を推進しています。これにより、教師自身が授業の良さを言語化し、実際に授業を見ることができなくても、お互いの授業づくりで大切にしていることや教材について知見を広げる機会としています。

3. 保護者の皆様へのお願い

本校の児童は、知識や技能の定着、基礎計算力において高い水準を保っていますが、今後は、それらの基礎力を土台として、「なぜそう考えるのか」「根拠をもって説明できるか」という、思考力・表現力を強化していくことが特に重要になります。

ご家庭におかれましても、様々な事象に対して理由を尋ねたり、説明を求めたりする対話活動を通じて、論理的に考える力を育むサポートをいただければ幸いです。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。